

1 評価結果から

(1) 本年度の重点努力目標について

「生徒の可能性を最大限に引き出し、常に高みを目指す学校づくり」を重点努力目標として取り組みました。生徒が可能性を広げる場面、自主性を育む時間を学校生活のさまざまな場面でつくり出せるよう、教育活動にあたってきました。「多様な考え方やアイデアを積極的に生み出すことができる地盤」「他者のために自らの責任を果たしていこうとする意識の向上」「自らの手でよりよい学校生活を構築していく生徒集団」を期待する具体的な姿としてとらえ、実践にあたってきました。

○ 重点努力目標関係アンケート項目

Q7「他者を助けたり、協力したりできたか」**Q15「係や委員会活動など人のためになる活動に進んで取り組めたか」****Q19「重点努力目標に取り組んでいたか」 Q20「本年度の取組で成長したか（見られたか）」**

・Q7では、肯定的な回答をした生徒が96%、保護者は93%となり、前年度に比べ増加した。また、Q15の「係や委員会活動など人のためになる活動に進んで取り組んだ」と回答した生徒の割合も、95%と高くなっている。

→ほとんどの生徒が、決まっている自分の役割に対し、責任をもって取り組むことができる。また、周囲の様子を見て、困っている人に積極的に協力しようとする生徒が多数であることも確認できた。また、地域で参加者を募集しているボランティア活動に参加し、地域の方々のために行動しようという思いを実践した生徒も多くいた。こういった姿を集会等の際に全校の生徒に伝え、一人ひとりの気持ちや行動がよりよい学校生活や社会生活につながることを今後も広めていきたい。いるボランティア活動に参加し、地域の方々のために行動しようという思いを実践した生徒も多くいた。こういった姿を集会等の際に全校の生徒に伝え、一人ひとりの気持ちや行動がよりよい学校生活や社会生活につながることを今後も広めていきたい。

・重点努力目標に係るQ19, 20では、今年度も学校に楽しく通えていると回答した生徒が9割を超え、蟹江中学校での学びの中で成長したと回答する生徒も9割を超えた。

→職業調べから始まる三年間を見通した「キャリア教育」や自分を見つめ他者との関わり方を考える「思春期講座」など、学校では一年を通し、生徒の成長を目指して、発達段階に応じた取組を継続して行っている。また、級友の新たなよさを発見し感謝を伝え合う取組など、毎日の生活の中で自己肯定感を高める取組を生徒と共に考えながら実践してきた。このような取組が、学校に来る楽しさにつながり、自身の成長を感じることに繋がったと考える。

しかし、楽しく通えていない、成長を実感できない、と感じる生徒と保護者が1割程度いることも分かった。一人一人の思いに寄り添い、小さな成長を積み重ねること、その成長を実感できるような関わりを、生徒と教員、生徒同士がもてるような場づくりを進めていく必要がある。

(2) 肯定的な回答が多かった項目

Q4「人の話を真剣に聞く」

生徒96%、保護者89%、教員93%という高い割合で肯定的な回答が得られた。

→学年や全校での集会では、ほとんどの生徒が話している人の顔を見て、真剣に話を聞く様子がうかがえる。この姿勢を一人一人がもつことで、現在の蟹江中学校の落ち着いた雰囲気醸成につながっている。

Q10「交通ルール、マナー順守」

生徒は98%、保護者は97%が肯定的な回答をした。しかし、教員の肯定的な回答が73%と低い結果となった。

→登下校中にヘルメットをかぶっていなかったり自転車で横に広がって通行したりする様子に安全面でご心配いただく声を地域から多数いただいた。また、公園や商業施設の利用状況が、周囲の方の迷惑になっているというご連絡もいただいた。これらのことが、教員の肯定的な回答の低下につながったと考える。公共のマナーやルールを守ることが自分自身だけでなく、周りの人の安心安全につながることを折に触れて考えさせ、公共マナーの遵守につなげたい。

Q14「学校行事、授業への取組」 Q16「学校は安心・安全で学べる場か」

どちらも昨年度に引き続き、三者とも高い評価となった。

→すべての生徒にとって、学校がよりよい成長の場となるよう今後も努力を継続する。

(3) 否定的な意見が多かった項目

Q6「情報機器の使用時間、情報モラルの順守」

生徒の91%が意識して生活していると回答している。保護者の肯定的な回答は、72%と昨年度の61%に比べると1割ほど高い数値となったが、依然として生徒と保護者で大きな差がある。

→学校では、情報モラル教育として、日常の注意喚起に加え、外部機関から講師を招いて SNS の利用について考える機会を設けている。しかし、生徒の中から SNS 利用に関する相談を受けることがある。情報機器を持たせる際の約束や管理について、今一度各家庭で話し合っていただく重要性を伝えながら、学校と家庭が協力して「被害者にも加害者にもならない」生徒の育成に努めたい。

Q12「予復習、自主学習の取組」

生徒 75%、保護者 65%、教員 70%が肯定的な回答をした。

→本年度も低い評価となった。授業への取組(Q11)では生徒と教員の9割が肯定的な回答をしているが、授業での取組が、家庭での自主的な学びにはつながっていない。「何のために学ぶのか」日々の授業やキャリア教育だけでなく、家庭に帰ってからの生活の中で、将来の夢や目標を見出し、自らの意思で学ぶ意欲を高めていく必要がある。

2 保護者からのご意見

(1) Q6「情報機器の利用において、使用時間の管理や情報モラルの順守を意識した生活」のためにご家庭で取り組んでみえること、試してみてよかったことなどについて

○ 使用時間については利用し始めるとなかなか自分では管理できないので、22時～7時まで使用禁止、LINE や YouTube などの使用時間制限、インスタや TikTok アプリはダウンロードしないなど、設定を使用して制限をしました。また、モラルについてはニュースで取り上げられるたびに話をするようにしました。本人もその中で考えながら使用していたのでよかったのではないかと思います。

○ 情報モラルについて、学校で丁寧に指導していただいていることに感謝しています。今後はデジタル機器を避けるのではなく、正しく使いこなす力を身に付けていくことも大切だと感じています。家庭でも、利用時間のルールづくりだけでなく、学習や調べ学習など、前向きな活用についても話し合いながら、学校と連携して子どもたちの情報リテラシーを育てていければと思います。

○ 保護者の同意(許可)が何をすることも不可欠だと思うので、保護者の端末に子どもの使用状況が分かるようになっていれば、事前に防げるものもあるのではないかと思います。ちなみに、我が家では、保護者のIDを使用しているので、許可が必要な場合は、保護者の端末に通知が届き、必要がないと判断したものはすぐに削除されるようになっていました。

(2) Q20「本年度の蟹江中学校での学びを通じた成長」について、子どもたちの成長のきっかけとなったと感じられる取組や行事、反対に成長につながらなかったと感じられる取組や行事(改善策など)について

○ 学校祭は、子どもたちの成長につながった行事だと感じられました。特に文化祭は、朝練習などを自主的に声かけをして取り組んでいたようでしたし、その成果を発揮したすばらしい歌声を披露してもらい、さすが3年生だなと感動しました。

○ 2月の学校保健委員会の講演は、まさにそのときの自分の子どもにバッチリと合った内容でとてもよかったです。子どもが帰宅してからも、「あなたのためにあったようなお話だったね」と会話をしました。「ようこそ先輩」で聞いたお話も、とても参考になってよかったと、子どもたちが話していました。1学期の学校保健委員会の歯のお話は、小学生でもいいのかなと思いました。

○ 学校生活の中で、友人関係や行事、委員会活動などを通して、子どもたちが少しずつ成長している様子を感じています。特に、仲間と協力して物事に取り組む経験は、中学校生活だけでなく、将来にもつながる大切な学びだと思います。一人一人の小さな成長や努力が実感できるような機会が、これからも多く設けられることを期待しています。

(3) その他

○ 新年度になり、環境の変化や勉強面の不安がある中で、先生からの一言が子どもに大きく影響したと感じており、親としては今でもやもやとしています。先生にとっては何気ない一言だったのですが、子どもにとっては大きな一言で、それが子どもの学校生活に影響してしまったことはとても悲しいです。

→ 貴重なご意見をありがとうございます。また、学校での指導に関してご心配をおかけし、大変申し訳ありません。日頃から生徒一人一人の思いに寄り添い、生徒の努力やよさを認め、生徒の自己肯定感を高められるように全職員で情報を共有して、取り組んでまいります。

○ Q17と18に関しては、否定的な回答が生徒に多い印象があるので、話しやすい雰囲気づくりが大切であると思います。

→ 貴重なご意見をありがとうございます。思春期の心身共に揺らぎやすい子どもたちが安心して中学校生活を送れるよう、日頃から一人一人の様子や変化に目を配るとともに、思いに寄り添いながら取り組んでまいります。